



謹んで新年のお慶びを申し上げます。町民の皆様におかれましては、輝かしい新春を、お健やかにお迎えのことと心からお喜び申し上げます。旧年中は、町政のさまざまな分野におきまして、皆様の温かいご理解とご協力ならびにご支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。

ご承知のように、一昨年3月に発生しました東日本大震災、さらには昨年7月の九州北部豪雨災害は自然の脅威をまざまざと見せつけられ、人間の無力さを痛切に感じさせられました。被災地の一日も早い復興と、今年こそは平穏であってほしいと思うものでございます。

さて、世界的金融危機を発端とした国内景気の悪化は一向に回復の兆しは見えず、地方経済は疲弊し、加えて、原発事故に端を発するエネルギー問題など、今後も厳しい状況が続いていくと思われまします。

そのような中、当町におきましては、現在「第5次総合計画基本構想」を基に、「日本一住みよいまち」の実現に向け、さまざまな取り組みを行っております。

特に、日々いきいきと健やかに暮らすことは私たちの願いであり、そのため、健康・福祉部門の充実を図るべく、行政組織の見直しを行いよりきめの細かいサービスの提供に努めるとともに、その拠点となる保健福祉センターについて本年3月の完成を目指し現在建設中です。

また、平成8年から取り組んでおります益城台地土地区画整理事業におきまして、昨年8月には、(株)イズミ、町および組合の三者により商業施設立地に関する協定調印式を行うことができました。西の拠点づくりとしてのインターチェンジ周辺開発の大きな一歩であると思えます。

さらには、集落内開発制度などの活用による宅地開発につきましては、飯野地区ではすでに着工されており、市街化調整区域内の活性化の大きな弾みになると思われまします。

住環境整備の基本となる下水道事業につきましては、平成25年度末には普及率94%に達する見込みです。

また、現在コンビニを活用した証明書等交付の運用を開始しておりますが、今後は、公共料金のコンビニ納付制度の導入の検討など、より質の高い行政サービスの提供に努めてまいりたいと思えます。

行政の基本は一人ひとりが主役であります。社会経済情勢の変化に柔軟に対応でき、真に自立可能・持続可能な益城町の創造のため「今が今一生懸命」職員一同一丸となって、さらなる工夫と努力を重ねてまいり所存でございます。

わが故郷益城町発展のため、皆様のお力添えをいただきますようお願い申し上げますとともに、本年が幸多い年となりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

# 日本一住みよいまちの実現をめざして

益城町長

住永 幸三郎

